



会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和元年5月16日

出張者	稗貫 秀次 	印	印	印
氏名	稗貫 秀次 	印	印	印

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	東京都		
期間	出張日数	令和元年5月9日 から 令和元年5月10日 まで	1泊2日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
②研修費	日本自治創造学会研究大会への参加		
備考			
資料等は別添のとおり			

会派代表	経理責任者	会員
		

## 政務調査報告（研修会）

1. 会派名： 開政会

2. 研修開催要項

日時：令和元年5月9日（木）13：00～10日（金）15：25

場所：東京都 明治大学アカデミーホール

主催者：日本自治創造学会

3. 視察者： 稗貫 秀次

4. 研修内容

日本自治創造学会研究大会

「新時代到来！～地方はどう生き残るか～」

5. 所感

我が国は、巨額な借金に加え少子高齢化と人口の減少が加速し、大きな転換期を迎えています。地方自治体には永年に亘って培われた様々な個性があり地域力があります。これからは、国と自治体が協力して、公的サービスにおけるお互いの役割分担を明確化し、双方の自己責任を確立して、現在の中央集権の関係から発生する膨大な無駄を排除し、国家財政の健全化と地方自治体の自主財源をしっかりと確保することによって、地方の再生を図っていかねばならないと思います。「2025年問題」の対応などで我が国は、これから膨大な行政経費が必要になり、そのためには十分な財源の確保が求められる。地方が衰退を続けると平成の大合併を指導した国は、今後、強制的に市町村合併を選択することに舵を切ると思います。だからこそ、地方自治体は主体性を発揮して、自らの振興を図らなければならないと強く感じる機会となりました。









また、生産年齢人口の減少により労働力の確保が課題となるなか、湖南省の外国人政策とその取組みは、今後の帯広市にとって大変参考になる講義であった。SDGsと地域循環共生圏の講義については、環境省の具体的な取組内容が理解でき、環境モデル都市としての帯広市の役割を再認識する機会となった。

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和元年6月4日

出張者	清水 隆吉 			
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	札幌市		
期間	出張日数	令和元年5月28日	から 令和元年5月28日 まで 泊 1 日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
②研修費	「性的マイノリティと人権」		
備考			
資料等は別添のとおり			

会派代表	経理責任者	会員
		

# 令和元年度 開政会 政務調査報告書

---

## 1. 期間

令和元年5月28日

## 2. 視察先

札幌市役所

## 3. 視察内容

性的マイノリティと人権

## 4. 参加議員

清水 隆吉

開政会会派の上記議員1名は政務調査のため、札幌市役所へ『性的マイノリティと人権』について調査に赴きました。また、訪問先において、説明聴取、質疑応答、意見交換及び資料収集をいたしました。

札幌市役所  
性的マイノリティと人権について

---

1. 調査日時 令和元年5月28日(火) 16:00～17:00
2. 場 所 札幌市役所  
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目  
(011-211-2111)
3. 札幌市パートナーシップ宣誓制度(以下、札幌市HPから抜粋)

#### 概要

性的マイノリティの方の気持ちを受けとめる取組として、お二人が互いを人生のパートナーとして、日常生活において相互に協力し合うことを約束した関係であることなどを札幌市長に対して宣誓をする制度です。お二人の宣誓に基づき、宣誓書の写しと市長名の宣誓書の受領証を交付します。

#### 対象

次の全てに該当する、一方又は双方が性的マイノリティのお二人。

- ・双方が20歳以上であること。
- ・市内に住所を有する、または、市内への転入を予定していること。
- ・双方に配偶者がいないこと及び他にパートナーシップの関係にないこと。

#### 宣誓の方法

1. 宣誓する日時を事前に電話等で調整
2. 必要書類を揃え、予約した日時に二人で来庁  
(場所 札幌市役所本庁舎13階男女共同参画課)
3. 市職員の面前で確認書と宣誓書を記入
4. 市から「宣誓書の写し」と「宣誓書受領証」を交付

## 必要書類

- ・住民票（マイナンバーの記載がないもの） 各1通
- ・独身を証明する書類（戸籍抄本など） 各1通

※いずれも3ヶ月以内に発行されたものに限ります。

※来庁時には、免許証など本人確認ができるもの（官公署が発行した顔写真付きのものに限ります）が必要になります。また、確認のため写しをとらせていただきます。

## 留意事項

- ・受領証を紛失、毀損した場合、宣誓書が保存されている場合に限り、再交付の申請ができます。
- ・パートナーシップが解消された場合などには、交付した宣誓書の写しと受領証を返還していただきます。
- ・宣誓書の保存期間は10年間です。
- ・受領証は、法的な効力を有するものではありません。
- ・受領証発行による手数料はかかりません。
- ・プライバシーに最大限配慮し、宣誓の場所については、ご希望により別室をご用意しますのでご相談ください。
- ・性別違和等の理由で日常生活に用いている通称名による宣誓手続を希望する場合は、ご相談ください。



## 質 疑 応 答

---

Q：札幌は大きい都市であるからLGBTの方が集まりやすいといったことがあるのか。

A：一概には言えないが東京や大阪など大都市の方が人口が多いことから多様な方が集まりやすいということはあるのではと考えている。

Q：受領証はどのような使い道があるのか。

A：受領証は、内部規定の要綱に基づく書類であって権利や義務が生じるものではないので法的な効力はない。ただ、民間にも波及する効果も期待しているところ。

Q：LGBTフレンドリー企業とあるが、特典などはあるのか。

A：『札幌市LGBTフレンドリー企業』として登録された企業の取組みを市のホームページにて紹介させていただいている。

## 所 感

---

男だから、女のくせに、といった性別に関する偏見は未だ健在である。帯広市においても男女共同参画は課題の一つである。匿名であったが、私も電話を受けたことがある。それは地元で農家をされている家柄で、男なのだから早く帰って来て家を継げ、と親に言われることが嫌で嫌で帰りたくない、といった電話であった。過去の私の質問でLGBTの課題を取り上げたこともあり、会議録を見て、電話をいただいたといった経緯である。LGBTの方に関してはまだまだ声を上げることが躊躇われることが多く、また、非難の対象になりやすい環境にもあるのが現状である。偏見が多くある中で、どのように偏見を取り除くことができるのか、どのように認める社会にしていけるのか、様々な角度から今後も調査研究を続けて参りたい。











会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和元年8月23日

出張者	稗貫 秀次				
氏名					

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	苫小牧市		
期間	出張日数	令和元年8月16日 から 令和元年8月17日 まで	1泊2日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
①調査旅費	「国際拠点港湾 苫小牧港の概要について」		
	「苫小牧国際リゾート構想の概要について」		
	「在日米軍再編に伴う訓練移転問題について」		
備考	資料等は別添のとおり		

会派代表	経理責任者	会員
		



## 行政視察報告

日 時：令和元年8月16日（金）13：00～14：00

場 所：苫小牧市入舟町3丁目4番21号

苫小牧港管理組合

電話：0144-34-5551

調査項目：国際拠点港湾 苫小牧港の概要について

視察者：開政会 稗貫 秀次

### 1. 調査概要

・苫小牧港は、北海道の貨物の約50%を取り扱う北日本最大の港である。札幌市を中心に、旭川・帯広など道内主要都市を短時間で結び、道内の物流拠点として重要な役割を果たしており、高速道路を活用した貨物輸送により大量輸送が実現されているため、その概要について調査した。

### 所感

・苫小牧港は、苫小牧市街地に近接する西港区と工業基地を有する東港区から構成されており、北海道はもとより、国内屈指の国際流通拠点港湾として、大きな役割を担っている。昭和26年から計画的に整備されており、北海道の海の玄関口として、益々、重要な役割を果たしていくものと思われる。十勝帯広からも農畜産物を中心に流通が行われており、カーフェリー、コンテナ船など、多数の航路を有しているため、高速道路網・鉄路の整備にも重要な役割を果たしていることが理解できた。

### 質疑応答

Q. 年間の取扱貨物量は？

A. 約1億トンである。

Q. 港を活用する主な立地企業の業種は？

A. 石油精製業・自動車工業・電力・木材・化学工業・非鉄金属・配合飼料など多種多様な企業が立地している。直近では、植物工場も立地された。

Q. どのような特色を備えた港湾なのか？

A. 工業港としての西港区、物流港としての東港区に色分けしている。

Q. 苫小牧港が果たす街づくりのコンセプトは？

A. 工業と人の暮らし、港と自然が調和した街づくりにより発展させる。

以上

## 行政視察報告

日 時：令和元年8月16日（金）14：30～16：00

場 所：苫小牧市入舟町3丁目4番21号

苫小牧港管理組合会議室

電話：0144-34-5551

調査項目：苫小牧国際リゾート構想の概要について

視察者：開政会 稗貫 秀次

### 1. 調査概要

・IR（統合型リゾート）は、会議場やホテル、ショッピングモール、テーマパークなど、子どもから大人まで誰もが訪れ、楽しむことのできる様々な施設と、これを収益面で支えるカジノ施設からなる観光リゾートで、民間の資金により整備・運営するものである。設置が許可されるのは、国内で最大3カ所のみであり、自然豊かな北海道に誘致した場合、来道者数が、大幅に増加することが期待され、税金等の増加や経済波及効果などと共に、道内の観光客の誘致に大きな効果をもたらすことが想定されるため、その概要について調査した。

### 所感

・世界各国で、カジノが合法化されており、その他のリゾート施設との併合により観光客をはじめとする多くの人を誘客できるため北海道にIRを誘致することで、道内観光の活性化が図られる。道内7空港の民営化と連動させ道内全域に相乗効果をもたらすことが期待できるため、カジノを単にギャンブルと位置づけるのではなく依存症対策も考えながら総合的に判断すべきと思う。

また、道内経済界からも誘致に対する強い要望があり、北海道と苫小牧市が連携し誘致に取り組んでいくべきと感じた。

### 質疑応答

Q. 誘致に向けた市民の反応は？

A. 全体としては、関心が薄く盛り上がりにかけている。市内17箇所ですべて市民との意見交換会を実施した。自然への影響・青少年への影響など様々な意見が出されている。

Q. 事業者として、どのような企業が興味を示しているのか？

A. 海外ですでに事業展開している複数の事業者が苫小牧市に準備事務所を開設した。

- Q. 北海道としての意思表示は、いつになるのか？
- A. 道議会と苫小牧市議会の同意が前提のため、まだ流動的であるが、一部の声としては、誘致あり気ではなく、止める選択肢もあると聞いている。
- Q. 苫小牧が指定される可能性は？
- A. 全国で最大3カ所の設置許可がなされる計画であり、大都市に2ヶ所、地方都市に1ヶ所の選定となる見通しである。苫小牧市の優位性は、十分にあると考えているが、スケジュール的には、かなり厳しい状況である。
- Q. 道内の他都市との連携はあるのか？
- A. 北広島市との間で、ボールパーク構想と連動させるべく、勉強会を立ち上げている。
- Q. 苫小牧市議会の同意が重要とのことであったが、賛否の状況は？
- A. 現状では、賛成が三分の一、反対が三分の一、賛否保留が三分の一である。
- Q. 今後の課題は？
- A. 最大の課題は、北海道の判断が出されていないこと。地元としても前に進めない状況である。

以上

## 行政視察報告

日 時：令和元年8月17日（土）10：00～11：00

場 所：苫小牧市旭町4丁目5番6号

苫小牧市役所

電話：0144-32-6111

調査項目：在日米軍再編に伴う訓練移転問題について

対応者：苫小牧市議会議員 越川 慶一 氏

調査者：開政会 稗貫 秀次

### 1. 調査概要

・北海道で日米共同訓練が実施され、帯広駐屯地がヘリコプターの整備や離発着等に使用される可能性が高いため、市民が不安を感じているオスプレイの使用など安全管理の徹底や市民生活への配慮などについて、苫小牧市の受け入れ状況について調査した。

### 所感

・市民の立場で、受け入れなくてもよい訓練であれば受けたくないという基本スタンスを持ちながらも沖縄県に集中している負担については、可能な限り負担の軽減に協力しなければならないと思われる。今後予定されるであろう日米共同訓練は、国防に関する国の政策であり、地方自治体としても安全対策と情報開示を担保しながら一定の理解と協力をしなければならないと感じた。

### 質疑応答

Q. 在日米軍再編に伴う訓練移転問題に対する苫小牧市のスタンスは？

A. 市長の判断のとおり受け入れは、やむを得ないものと判断している。

Q. 訓練実施にあたっての具体的な動きは？

A. 訓練実施の3週間前通知によって訓練期間や参加規模が示される。その後、市長の記者会見が行われ、騒音対策協議会や市議会議員へ公表し、市議会は臨時の委員会を開催し内容について質疑が行われる。

訓練実施の1週間前通知では、具体的な訓練内容、参加部隊、規模などが示され、騒音が懸念される航路直下地域へのチラシ配布、防衛省への安全対策の徹底について申し入れを行う。訓練当日は、千歳基地へ到着後、米軍隊長および防衛局のブリーフィングが実施され、副市長や市議会議員、地域住民の代表が出席し質疑が行われる。訓練終了後は、市が報告書をまとめ、騒音協議会および市議会の所管委員会に報告を行い、一連の流れが終了する。

Q. 市民への周知は、どのように行っているのか？

A. 訓練期間中は、何時に何機飛来したのかと、騒音レベルを測定し市のホームページやフェイスブックで周知している。

Q. 今までにオスプレイの飛来はあったか？

A. 今までに千歳基地へのオスプレイの飛来はない。よって、苫小牧市としてオスプレイの受け入れについて判断したことはないが、過去に北海道大演習場での訓練の際に、当初の飛行ルートに入っていなかったにもかかわらず、苫小牧市街地上空を通過したことがあり、議会として嚴重に抗議をしたことがあった。

以上

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様

令和元年10月10日

出張者	小森 唯永	印	印	印	印
氏名		印	印	印	印

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	東京都					
期間	出張日数	令和元年10月2日	から	令和元年10月3日	まで	1泊2日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)					
①調査旅費	「帯広の競馬のあり方について」					
備考						
資料等は別添のとおり						

会派代表	経理責任者	会員
稗貫	清永	小森

# 令和元年度 開政会

## 政務調査報告書

### 1. 期間

令和元年 10 月 2 日（水）～10 月 3 日（木）

### 2. 視察先

地方競馬全国協会視察

令和元年 10 月 3 日（木）10：00～11：30

#### (1) 帯広の競馬のあり方について

- ① 騎手、調教師、厩務員の雇用と人材不足について
- ② 一般会計への財源の繰り入れについて
- ③ 生産馬振興について
- ④ 帯広競馬のこれからについて

### 開政会調査参加議員

小森 唯永

開政会会派の上記議員 1 名は政務調査のため、令和元年 10 月 2 から令和元年 10 月 3 日までの 2 日間の行程にて、地方競馬全国協会へ帯広競馬のあり方について調査に赴きました。

訪問先においては、説明聴取・質疑応答・意見交換及び資料収集をして参りました。

---

地方競馬全国協会  
帯広競馬のあり方について

---

1. 調査日時 令和元年 10 月 3 日 (木) 10:00～11:30

2. 場 所 地方競馬全国協会  
(東京都港区麻布台 2 丁目 2-1)

3. 地方競馬全国協会の概要

(1) 設立年月

昭和 37 年 8 月

(2) 目 的

畜産の振興

(3) 業務内容

- ① 馬主・競走馬の登録
- ② 調教師、騎手等の免許
- ③ 開催執務委員の派遣及び研修
- ④ 競馬の公正化促進と運営改善
- ⑤ 競馬関係者の表彰
- ⑥ 企画・広報及び競馬振興策等の推進
- ⑦ 競馬活性化事業
- ⑧ 畜産振興事業に対する補助
- ⑨ 競走馬生産振興事業に対する補助
- ⑩ 調教師・騎手等の養成及び訓練と競馬専門職員の養成



## 質 疑 応 答

---

- Q. 騎手、調教師及び厩務員の雇用と人材不足についてどのようにお考えか。
- A. 騎手にはより一層、学科の勉強が必要である。また、厩務員に関しては外国人労働者の雇用が取り急ぎの対策としてあげられる。
- Q. 一般会計の財源への繰り入れについて。
- A. 国の指導である施設整備等が進んでいない現状とのことなので、その部分を優先する。
- Q. 生産馬振興についてどのようにお考えか。
- A. 今後行っていきたい。但し黒字が続けば補助金減額の可能性がある。
- Q. 帯広競馬についてどのようにお考えか。
- A. 世界で唯一の競馬として今後も PR 等、できる限りの支援をしていきたい。

## 所 見

---

北海道十勝は四季折々の景色を見せる雄大な自然や、それに支えられる豊かな食文化や、穏やかで力強い風土により、観光地として国内のみならず全世界から注目されている。そんな十勝ならではの魅力の一つに帯広市が単独で運営するばんえい競馬が挙げられる。帯広市には世界で唯一のばんえい競馬の継続と振興の義務がある。そこでこの度は地方競馬全国協会に赴き、話し合いを行った。









本調査の主題は、帯広競馬のあり方において特に重要な課題である①雇用と②財源の確保についてである。①雇用状態に対して、騎手にはより一層学科の勉強が必要であると指摘を受け、特に専門時間の確保の必要性を理解した。さらに②財源の確保について、新規開催にあたって市からの負担が無く、事業廃止の際も職員に対する補償（退職金等）が無いこと等“帯広市の特殊事情”を考慮してご支援をいただきたいと要望した。地方競馬全国協会からは、PR 等の含め出来る限りの支援をしていきたい、とお言葉があり非常に協力的であった。帯広市の競馬の現状と地方競馬全国協会からの支援の必要性を再確認することができた。競馬を通じた地域振興のため、今後も会合を続けていく必要がある。

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和元年11月14日

出張者	稗貫 秀次				
氏名					

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	札幌市		
期間	出張日数	令和元年11月7日	から 令和元年11月7日 まで 泊 1 日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
②研修費	「エネルギー政策の矛盾と再エネ導入拡大がもたらす課題」		
備考			
資料等は別添のとおり			

会派代表	経理責任者	会員
		

## 政務調査報告（セミナー）

1. 会派名： 開政会

2. 研修開催要項

日時：2019年11月7日（木）15:00～16:30

場所：札幌ビューホテル大通公園

3. 視察者： 稗貫 秀次

4. 研修内容

エネルギー政策の矛盾と再エネ導入拡大がもたらす課題

5. 講師

社会保障経済研究所

代表 石川 和男 氏

6. 所感

エネルギー政策分野で噴出し始めた矛盾点と今後の展望、諸外国との比較を含めたエネルギー事情などについて、資料を基にわかりやすく説明していただき、大変参考になった。

① 近未来の日本の状況

人口減少・少子高齢化により現役世代に多大な負担を求めることになる。

いかに、国民負担増を抑制するかが、課題である。

② エネルギーコスト論

安全保障とCO2対策をセットで考える必要がある。

③ 原子力発電の停止・再生エネルギー・電力自由化の問題

・大衆迎合により、マスコミが取り上げたがらない不都合な事実。

・電力システム改革は、福島原発事故後の批判への筋違いな対応。

④ 原子力関係インフラの立地地域の位置づけ









原子力発電所・中間貯蔵施設・最終処分場を誘致した自治体への支援策。

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和元年11月29日

出張者	稗貫 秀次 			
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	東京都		
期間	出張日数	令和元年11月21日 から 令和元年11月22日 まで	1泊2日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
①調査旅費	「井の頭恩賜公園の水辺再生の取組みについて」		
備考	資料等は別添のとおり		

会派代表	経理責任者	会員
		

## 行政視察報告

日 時：令和元年11月22日（金）13：00～14：00

場 所：東京都武蔵野市御殿山1-17-59

東京都西部公園緑地事務所

電話：0422-47-0192

調査項目：井の頭恩賜公園の水辺再生の取組みについて

視察者：開政会 稗貫 秀次

### 1. 調査概要

・井の頭恩賜公園の中央に位置する井の頭池は、都民が気軽に触れられる水辺であるが、都市化による湧水の減少や水質の低下などにより、景観や動植物の生息にも影響が生じていた。このような状況を改善するため、豊かな水辺の再生を目指し様々な取組みを行っており、その概要について調査した。

### 所感

・井の頭池では、これまで100年実行委員会を立ち上げ、3回のかいぼりを実施するとともに、護岸工事により多様な水辺の環境を創出し池の再生と動植物の住み良い環境づくりに向け取り組んだ結果、大きな成果を上げている。帯広市は、過去に十勝池の水質悪化を防止するために、かいぼりを行ったが、水質悪化に歯止めがかからず、別な対策が求められているため、井の頭池で取り組んでいる対策で参考になるものがないかを見聞することができた。

しかしながら、池の面積や水深など物理的に異なるため、井の頭池の対策を簡単に取り入れることは、難しい状況である。

### 質疑応答

Q. 井の頭池の管理の特徴は？

A. ボランティア組織が設置されており、市民団体・地域団体・行政が協力のもと、定期的な協議会の開催と生物の調査や環境保全に向けた各種啓発活動を実施している。

Q. 井の頭池を再生させることになった、きっかけは？

A. 高度経済成長期に、都市化の進展により湧水が枯渇し水質の悪化が顕著になった。その後、平成16年の度重なる台風の襲来により大量の湧水が復活し、再生が期待できるレベルになったため、井の頭公園開園100年プロジェクトが発足したことによる。

Q. 現在は、どのような活動をしているのか？

A. 関係団体と定期的に会合を行い、池の清掃事業や動植物のモニタリング、外来種の駆除を行っている。

Q. ボランティア団体の活動は？

A. 約40名の組織で、環境保全のため、週二回の各種活動を行っていている。

以上

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様

令和2年2月10日

出張者	稗貫 秀次				
氏名					

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	千葉市				
期間	出張日数	令和2年2月4日	から	令和2年2月6日	まで
					2泊3日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)				
②研修費	「食農を起点とした街づくりの実現に向けて」 「人口減少社会に対応したまちづくりとスマートシティの将来像」 DMO(地域観光づくり)「持続可能な地域のためのデスティネーションマネジメント」				
備考	資料等は別添のとおり				

会派代表	経理責任者	会員

# 令和元年度 開政会 政務調査報告書

## 1. 期間

令和2年2月4日（火）～令和2年2月7日（金）

## 2. 視察先

幕張メッセ

千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1

## 3. 視察内容

2月5日（水）10:00～11:00

・食農を起点とした街づくりの実現に向けて

（株）NTTアグリテクノロジー代表取締役社長 酒井 大雅氏

2月5日（水）12:00～12:45

・人口減少社会に対応したまちづくりとスマートシティの将来像

元総務大臣／内閣官房「まち・ひと・しごと創生戦略」有識者会議 委員

東京大学 客員教授 増田 寛也氏

2月6日（木）12:00～12:45

・地方創生のさらなる飛躍に向けて

～第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を中心に～

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生総括官補

多田 健一郎氏

2月6日（木）16:00～17:00

・地方創生ファンドによる成功事例紹介

フューチャーベンチャーキャピタル（株）

代表取締役社長 松本 直人氏

## 4. 参加議員

稗貫 秀次 ※2月5日（水）まで

小森 唯永

清水 隆吉



開政会会派の上記議員3名は政務調査のため、令和2年2月4日から2月7日の行程にて幕張メッセに第3回地方創生EXPOの講演受講に赴きました。



---

## 幕張メッセ

### 食農を起点とした街づくりの実現に向けて

---

1. 調査日時 令和2年2月5日（火）10:00～11:00

2. 場所 幕張メッセ  
千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1

3. 講師 (株)NTTアグリテクノロジー  
代表取締役社長 酒井 大雅 氏

---

質疑応答 講演のためなし

---

#### 所 感

十勝は日本の食糧基地と言われるほど畑作、酪農が有名である。日本を見渡すと三大都市圏では人口が伸びている、裏を返せば地方圏の減少が顕著になっており十勝においても例外ではない。そして、日本全国では農業従事者はここ30年間で半減しており、定年がないことも相まって従事者の年齢は高い傾向にある。人口減少やなり手不足が叫ばれる中、農業においてもIoT技術が駆使されてきている。勘に頼ることなくデータを基に管理する点や、災害対策にも技術を活用しているという。そして、講師は、最近地元の高専と手を組むことが多いともいう。高専は基礎研究というよりは地域の課題をキャッチアップし、実走するような取り組みが行われているからだという。本市においては国立である帯広畜産大学があり、連携して行う取り組みが増えてきており、今後、どのようにしていくことが出来るか、どのような可能性があるか、今後とも調査研究を進めて参りたい。



## 人口減少社会に対応したまちづくりとスマートシティの将来像

1. 調査日時 令和2年2月5日(火) 12:00~12:45

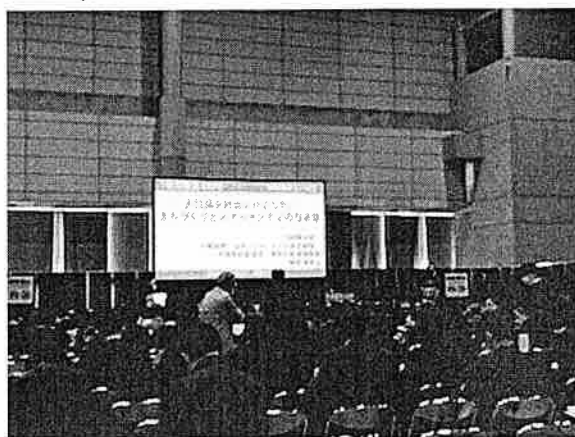
2. 場所 幕張メッセ  
千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1

3. 講師 元総務大臣  
内閣官房「まち・ひと・しごと創生戦略」有識者会議 委員  
東京大学 客員教授 増田 寛也氏

質疑応答 講演のためなし

所 感

人口減少問題が叫ばれて久しい。団塊世代の子どもたちが高齢者になる2040年への課題は待ったなしの状況で、現在、東京圏は約15万人ほど転入超過となっており、その年齢構成では9割ほどが30歳以下となっている。このまま地方が衰退していけば自ずと大都市もいずれ衰退していくことが目に見えていることから「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がつけられた経緯がある。第2期における新たな視点として、テクノロジーを使えばかなりのサービスを受けられる世の中になっている点、暮らし方が地域によって大きく変わることからどのようにしたらその地域はよくなるのか柔軟に考えることが重要であるといった点があるという。全国のプチ東京化が地方の個性や魅力を失わせたと講師は言う。帯広市においてもくればわかる、食べればわかる、ではなく外から来る方々にしっかりと伝えることが必要であり、住んでいる方々も享受している必要があると考える。一朝一夕で解決する問題ではないので、どのように手を打っていくか、短期的な視点だけではなく中長期的な視点も持ちながら調査研究を進めて参りたい。



## 政務調査報告（セミナー）

1. 会派名： 開政会

2. 研修開催要項

日時：2020年2月5日（水）16：00～16：45

場所：幕張メッセ

3. 視察者： 稗貫 秀次

4. 研修内容

DMO（地域観光づくり）

「持続可能な地域のためのデスティネーションマネジメント」

5. 講師

DMO推進機構

代表理事 大社 充 氏

7. 所感









観光振興は日本における重要な産業振興と位置づけられており、国をあげて様々な施策が行われている。日本は人口減少が進み、それに伴い経済は縮小に向かうが、どのようにして落ち込みをカバーするか考えたときに、着目されたのが「観光」である。たとえば、インバウンドでは、海外の方が日本に来てお金を消費する。このことは、輸出と一緒である。過去の日本は、技術立国で、安くていいものを大量に輸出することで経済を発展させてきた。しかし、市場や世界情勢が目まぐるしく変化する時代になり、これまでのやり方では、立ち行かなくなってきた。一方で、観光資源に目を向けると、東京・大阪・京都といった特定のエリアだけではなく、全国各地に存在している。関係者が連携して自然・文化・食を生かして観光客を広く誘致することが必要である。「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりが求められている。要約すると以上のような内容をパワーポイントを基にわかりやすく説明していただき、大変参考になったが、手持ち資料が配布されなかったことは、不満である。

会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和2年2月10日

出張者	小森 唯永 	清水 隆吉 		
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	千葉市		
期間	出張日数	令和2年2月4日 から 令和2年2月7日 まで	3泊4日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
②研修費	「食農を起点とした街づくりの実現に向けて」  「人口減少社会に対応したまちづくりとスマートシティの将来像」  「地方創生のさらなる飛躍に向けて ～第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を中心に～」  「地方創生ファンドによる成功事例紹介」		
備考	資料等は別添のとおり		

会派代表	経理責任者	会員
		

# 令和元年度 開政会 政務調査報告書

---

## 1. 期間

令和2年2月4日（火）～令和2年2月7日（金）

## 2. 視察先

幕張メッセ

千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1

## 3. 視察内容

2月5日（水）10:00～11:00

・食農を起点とした街づくりの実現に向けて

（株）NTTアグリテクノロジー代表取締役社長 酒井 大雅氏

2月5日（水）12:00～12:45

・人口減少社会に対応したまちづくりとスマートシティの将来像  
元総務大臣／内閣官房「まち・ひと・しごと創生戦略」有識者会議 委員  
東京大学 客員教授 増田 寛也氏

2月6日（木）12:00～12:45

・地方創生のさらなる飛躍に向けて

～第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を中心に～  
内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 地方創生総括官補  
多田 健一郎氏

2月6日（木）16:00～17:00

・地方創生ファンドによる成功事例紹介  
フューチャーベンチャーキャピタル（株）  
代表取締役社長 松本 直人氏

## 4. 参加議員

稗貫 秀次 ※2月5日（水）まで

小森 唯永

清水 隆吉

開政会会派の上記議員 3名は政務調査のため、令和2年2月4日から2月7日の行程にて幕張メッセに第3回地方創生EXPOの講演受講に赴きました。



---

## 幕張メッセ

### 食農を起点とした街づくりの実現に向けて

---

1. 調査日時 令和2年2月5日（火）10:00～11:00
  2. 場 所 幕張メッセ  
千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1
  3. 講 師 (株)NTTアグリテクノロジー  
代表取締役社長 酒井 大雅 氏
- 

#### 質疑応答 講演のためなし

---

#### 所 感

十勝は日本の食糧基地と言われるほど畑作、酪農が有名である。日本を見渡すと三大都市圏では人口が伸びている、裏を返せば地方圏の減少が顕著になっており十勝においても例外ではない。そして、日本全国では農業従事者はここ30年間で半減しており、定年がないことも相まって従事者の年齢は高い傾向にある。人口減少やなり手不足が叫ばれる中、農業においてもIoT技術が駆使されてきている。勘に頼ることなくデータを基に管理する点や、災害対策にも技術を活用しているという。そして、講師は、最近地元の高専と手を組むことが多いともいう。高専は基礎研究というよりは地域の課題をキャッチアップし、実走するような取り組みが行われているからだという。本市においては国立である帯広畜産大学があり、連携して行う取り組みが増えてきており、今後、どのようにしていくことが出来るか、どのような可能性があるか、今後とも調査研究を進めて参りたい。





## 人口減少社会に対応したまちづくりとスマートシティの将来像

---

1. 調査日時 令和2年2月5日(火) 12:00~12:45
2. 場所 幕張メッセ  
千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1
3. 講師 元総務大臣  
内閣官房「まち・ひと・しごと創生戦略」有識者会議 委員  
東京大学 客員教授 増田 寛也氏

---

### 質疑応答 講演のためなし

---

#### 所感

人口減少問題が叫ばれて久しい。団塊世代の子どもたちが高齢者になる2040年への課題は待ったなしの状況で、現在、東京圏は約15万人ほど転入超過となっており、その年齢構成では9割ほどが30歳以下となっている。このまま地方が衰退していけば自ずと大都市もいずれ衰退していくことが目に見えていることから「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がつけられた経緯がある。第2期における新たな視点として、テクノロジーを使えばかなりのサービスを受けられる世の中になっている点、暮らし方が地域によって大きく変わることからどのようにしたらその地域はよくなるのか柔軟に考えることが重要であるといった点があるという。全国のプチ東京化が地方の個性や魅力を失わせたという講師は言う。帯広市においてもくればわかる、食べればわかる、ではなく外から来る方々にしっかりと伝えることが必要であり、住んでいる方々も享受している必要があると考える。一朝一夕で解決する問題ではないので、どのように手を打っていくか、短期的な視点だけではなく中長期的な視点も持ちながら調査研究を進めて参りたい。



地方創生のさらなる飛躍に向けて  
～第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を中心に～

1. 調査日時 令和2年2月6日（水）12:00～12:45

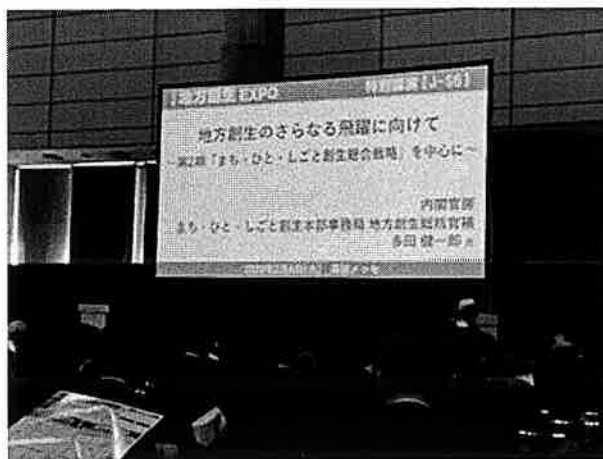
2. 場 所 幕張メッセ  
千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1

3. 講 師 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
地方創生総括官補 多田 健一郎 氏

質疑応答 講演のためなし

所 感

地方の若者の就業率、訪日外国人旅行客数、農林水産物食品輸出額は伸びている状況である。しかし、東京圏への転入超過数は伸びており、東京への一極集中、人口減少問題では、2018年の出生数は1.42であり、人口が減少しない2.08との隔たりがあり、いまだ人口は減少傾向である。そして高齢化率は2018年28.1%とこれもまた伸びている。東京圏への転入においては15～19歳は26,000人前後と横ばいであるのに対し、20代前半が伸びている傾向にあるという。同じ会社や業種でもやりがいがある（35.4%）、娯楽レジャー文化芸術等に触れる機会が多い（30.8%）など若者は生活環境に関してもいいイメージを持っている。様々なお話しを聞く中で印象に残っているのは、税額控除割合を現行の二倍に拡充する企業版ふるさと納税や、地域の将来を支える人材の育成のためには高校生段階で地域を知る機会を創出することが重要であるといった観点から高校生の地域留学を始める。関係人口の創出・拡大を図るためにはどのようなことができるか、今後も調査研究を続けて参りたい。



## 地方創生ファンドによる成功事例紹介

---

1. 調査日時 令和2年2月6日（水）16:00～17:00

2. 場所 幕張メッセ  
千葉県千葉市美浜区中瀬二丁目1

3. 講師 フューチャーベンチャーキャピタル（株）  
代表取締役社長 松本 直人氏

---

質疑応答 時間超過のためなし

---

### 所見

地方が生き残っていく為には人材が大切である。目まぐるしく変わる世の中で帯広市においても起業支援の取り組みが行われている。有望なビジネスモデルを持ち、価値が高く創業してあまり時間が経過していない企業の総称であるユニコーン企業に対し、急成長を求めず、よりお客様の視点に立ち、長期的な視点で価値のあるサービスを提供しようとするシマウマ企業が見直されているという。今、時代はサステナブル、持続可能かどうかといった視点が重要視されている点からもうかがい知れる。しかし、本市においては観光の面でも十勝の価値をさらに高めるといった点においても十勝発、といった考え方は必要であり、インパクトを与えることも重要になってくると考える。どのようにすれば最大限十勝の価値が発揮されるのか、さらに伸ばしていくことが出来るのか、どのような手段があるのかなど、今後とも調査研究を進めて参りたい。











会派名 開政会

報告日

会派代表者 稗貫 秀次 様




令和2年2月25日

出張者	小森 唯永 	清水 隆吉 		
氏名				

下記のとおり出張しましたので報告します。

記

用務先	札幌市		
期間	出張日数	令和2年2月18日 から 令和2年2月18日	まで 泊 1 日
支払科目	用務詳細(内容、用務先名、説明等)		
①調査旅費	「十勝圏複合事務組合が計画中の新中間処理施設について」		
備考	資料等は別添のとおり		

会派代表	経理責任者	会員
		

# 令和元年度 開政会 政務調査報告書

---

## 1. 期間

令和2年2月18日

## 2. 視察先

JFEエンジニアリング株式会社  
札幌市中央区北1条西3丁目2井門札幌ビル4階  
(011-271-2211)

## 3. 視察内容

十勝圏複合事務組合が計画中的の新中間処理施設について

## 4. 参加議員

小森 唯永

清水 隆吉

開政会会派の上記議員2名は政務調査のため、令和2年2月18日にJFEエンジニアリング株式会社へ十勝圏複合事務組合が計画中的の新中間処理施設について調査に赴きました。また、訪問先において、説明聴取、質疑応答、意見交換及び資料収集をまいりました。

十勝圏複合事務組合が計画の中中間処理施設について

1. 調査日時 令和2年2月18日(火) 11:00~12:10

2. 場 所 JFEエンジニアリング株式会社 北海道支店  
札幌市中央区北1条西3丁目2井門札幌ビル4階  
(011-271-2329)

3. JFEエンジニアリング株式会社の概要

JFEエンジニアリング株式会社

(JFE Engineering Corporation)

本社所在地

東京本社 東京都千代田区丸の内一丁目8番1号

(丸の内トラストタワーN館19階)

横浜本社 横浜市鶴見区末広町二丁目1番地

資本金

100億円

社員数

(グループ会社含む)

約10,000人



JFEエンジニアリング株式会社  
北海道支店エントランス

## 質 疑 応 答

---

Q：焼却炉の耐用年数は。

A：弊社の耐用年数は(大規模改修工事を実施しない場合)通常であれば20年、最大で25年である。

Q：アンケート調査で出された金額はどの程度の信ぴょう性があるのか。

A：実際に調査し、細かい数字まで出すとなると半年以上かかるが、弊社には他の自治体にも実績があるので勘案し数字を出している。

Q：現施設でリニューアルということは考えられないのか。

A：各メーカーは焼却炉の型式やプラント全体の設計思想が個々に異なることから他メーカーが建設した施設のリニューアルすることは非常に難しく、全国的にも実績がない。リニューアルについて一般論として回答すると、その時のコストだけを見れば中身を入れ替える方が安く済む可能性はある。しかし、次につくられる施設を40、50年使用していくことを考えれば、コンクリートの耐用年数は50年であるので、現施設がコンクリートを25年使用していることを考えればまた25年後に建て直すということ、そして古い施設はエネルギー回収が出来ていないということである。

## 所 感

---

十勝圏複合事務組合が計画中的の新中間処理施設は、規模にしても金額にしてもとても大きな事業になるであろうことが示されているところである。そこで十勝圏複合事務組合がアンケート調査を取った会社の一つであるJFEエンジニアリング株式会社に赴いた。10年前は一昔、とはよく言ったもので土木建築工事の単価も上がってきているとのことであった。事業費のおよそ3割という工事単価が5割強にまであがってきていることも総建築費用の上昇に拍車をかけているといった点、そして昨今の大雨、浸水等の災害対策の観点からも電気系統は2階にあげることも大切である点もお聞きすることが出来た。中間処理施設管轄の事務組合へ直接の質疑は出来ないが組合議員である、なしに関わらず環境モデル都市である帯広市としてどのように考えるか、そして十勝のこれから50年先の未来まで左右する施設であることを踏まえ今後も調査研究を続けて参りたい。

